中国農業を視察して

西船越　小林勇作

西船越の小林勇作さんは、新潟県農業者友好訪中団の一員として選ばれ、去る十一月六日～十三日までの八日間、中国の農業事情を視察し、滞在期間中は、一諸に田畑に足を入れ農作業を行うなど貴重な体験をしてまいりました。

――イヤー、中国の人たちの農業にかける意気ごみはものすごいもんですね。質素な生活をしながら懸命に農業生産に励んでいる姿には頭が下がりました――と感想を話していました。

この小林さんから、自分の目でとらえ体験してきた中国農業の現状についてのレポートが寄せられましたので紹介します。

総態

現在の中国農業や生活状態を外面的にみる限りでは、発展途上国の感じを受けました。しかし内面的には、人づくり教育と農業基盤づくりに徹底して、目標達成に向けられ計画的、効率的に全体の調和のとれた発展を推進しており、近い将来には世界最強の社会主義国家の実現は可能であろうと通感しました。

四つの近代化、つまり、農業、工業、科学、国防、を推しすすめる国策の中で農業に対する熱の入れ方は、想像以上でした。

人民公社について

この人民公社とは、日本流にいえば、役場、農協、商工会、警察が一体となったような組織で、世帯数は三千戸、人口は二万人位で農水産、工業の生産工場で工農商学兵などの総合組織です。

私共も三ケ所の人民公社を訪問したわけですが、河埼人民公社では、昔からの町の態系をそのまま新制度に当てての運営で工場と農業の合理性を見学しました。

農繁期は、工場から労力を注ぎこみ、農作業を行い、逆に農閑期には工場へという方式がとられております。

その公社内の作付や消費の計画は一応国の中央会議で予め決められ、それを各公社で計画生産するわけです。

農業生産

無錫市、上海市は亜熱帯に属しているため、一九七三年から三毛作に取りくんでおり、その単位面積当りの収量を高めるための努力がなされておりました。

水稲二期作と麦を組合せ、苗代期間を含めて一年間を四百日余りの土地の高度利用を実現させている点や地力培養のために、家畜の飼育と併せて推肥の増産と樹木の葉（ほとんどがプラタナス）の活用で化学肥料の依存度は極めて低く、農薬剤も同様に天敵の研究に力を入れるなど、寸分の土地も活用する気持ちが強く印象づけられました。

家庭生活

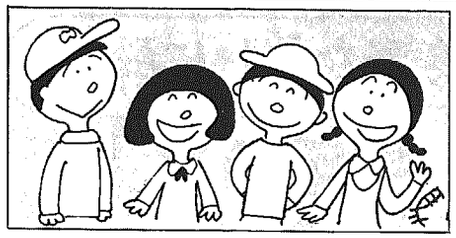
付近の農家の訪問を許されたことから、中流家庭を訪れ、家族の話しを聞き、家の中も見せてもらいました。共通していることは家具や調度品が質素で生活必需品以外すべて置かない合理主義で、テレビは公会堂で、オモチャは、保育園で、着物は国民服と下着類だけという具合です。

収入は四人家族で年間、日本円で二七八、〇〇〇円位であり、その半分は余剰金として、貯金しているそうです。

質素で無駄を省きながら生活を大事にし、家庭管理は男女で担っています。

社会保障

病院、学校、保育所、托児所、老人ホームなどは完備していて、すべて国家（人民公社）の負担で運営されていて、幼児から老人に至るまで希望者は利用できる体制になっています。



国際児童年 ―人権週間によせて―

どなたにとっても、自分の子や孫は大切な"宝"です。

しかし、自分だけの"持ち物"ではありません。

また、子どもは心身ともに成長過程にある一人の人間であって、精神的、肉体的に劣る"未熟なおとな"ではありません。

子どもを一人の人間として認める―「子どもの人権尊重」はここから始まります。

「せっかん」や「子捨て」はいうにおよびませんがわたしたちは、時として子どもが一人の人間であることを忘れ、あたかも自分だけの"所有物"のように扱ったことはないでしょうか。

たとえば、他人にはみせられない夫婦げんかも、子どもの前では平気でするといったようなことが――。

子どもは、一日の大半を家庭で過ごします。家庭をそして両親を唯一の心のよりどころに生きている子どもたちにとって、家庭内の不和は、わたしたちおとなが考える以上に深刻です。

とくに両親と子どもだけの、いわゆる核家族の場合夫婦の不和はそのまま家庭の崩壊につながることがあり、その結果、子どもは心に大きな痛手をこうむることになります。

子どもの人権は「まず心身ともに健康な家庭」からといわれるように、子どもの健全な成長にとって家庭のしめるウェートは大きいのです。

また、一方、かわいがりすぎる過保護も、成長過程にある一人の人間として子どもに接していないという意味で、罪深いことといえましょう。

子どもは、自分の"宝"であると同時に社会の"宝"でもあります。やがて、社会の第一線に立って、新しい時代を築いていくのです。その時に備えて、社会生活に適応できる一人の人間に育つよう助力するのが、子どもに対するわたしたちおとなの務めであるといえるでしょう。

そのためには、一人の人間として子どもに接することと――子どもの人権を尊重することから始めるべきではないでしょうか。

今年は「国際児童年」です。人権週間にあたって、改めて子どもと人権について考えてみましょう。

工業統計調査にご協力を

製造業を営むみなさんを対象に工業統計調査が行われます。

十二月三十一日現在での調査のため、年末年始のお忙しい中を調査員がお伺いしますがご協力をお願いいたします。

村の話題

小林ヒナ（西船越）さんの生活記録が優秀賞に

▲まさか入賞なんて……と小林さん

小林さんは、「酪農経営と共に歩いた私の記録」と題し、農家の主婦としての立場と、水田酪農推進の補佐役という両面からの体験をまとめたものです。

――優秀賞なんて思ってもいませんでした。生活そのものを反省するつもりで書いてみただけなのに、でもこれを一つの節として、もっとがんばりますの――とニッコリ、明かるい主婦の顔でした。

鈴木博さんが知事賞

～県優良林育成コンクール～

森林事業の振興と普及をはかるため県では、優良林育成コンクールを開催しています。

このコンクールに村を代表して参加した石瀬の鈴木博さんがみごと県知事賞を受賞しました。

優良材を生産するために正しい枝打ち、間伐、などそれなりの管理が必要です。地道な努力の結果が実ったものと関係者はよろこんでいます。

▲うれしいですね　もっとがんばります

演劇サークル「あぜみち」が全国大会に出場

演劇サークル「あぜみち」が県代表として、全国青年大会に出場しました。

大会は先月東京で行われたもので、惜しくも入賞することはできませんでしたが、その努力は大いに賞賛されます。

――入賞はできませんでしたが精一杯の演技ができましたので悔はありません――とリーダーの山縣君、全力を出しきった結果に満足そうでした。

健康優良生徒に岩中から二名

出発前公民館長と▼

健康優良生徒の審査は、身体測定・内科・耳鼻科・眼科・歯科検診・運動能力テスト及び面接を実施し、西蒲中学生約五七〇〇名の中から心身共健康な生徒を選ぶものです。

岩中から、女子の部で山田晴美さんが第一位にあたる優良生徒、男子の部で山田敏司くんが第二位にあたる準優良生徒として表彰されました。男女共、表彰されるのは珍しいことで審査会の注目を集めました。

▲健康って、いいですね……。